

長期構想とは

東京港を取り巻く情勢の変化を踏まえ、概ね20年後（2040年代）の東京港の将来像を明らかにし、次期改訂港湾計画を策定するための指針とするもの

長期構想の基本理念

進化し続ける未来創造港湾 東京港 ～スマートポートの実現～

常に港の新陳代謝を進め、新たな価値を創造し、国際競争力が高く進化し続ける港

東京港の目指すべき将来像

物流 世界とつながるリーディングポート

- ユーザーに選ばれる競争力が高く使いやすい港
- 最先端技術の積極的な活用による効率性の高い港
- 適切な機能配置と運営により港湾空間を効率的に活用

防災・維持管理 信頼をつなぐレジリエントポート

- 災害時にも物流活動を維持できる強靱な港
- 自然災害や気候変動等から都民の生命と財産を確実に守る
- 既存ストックを適切に維持し将来にわたり港湾機能を発揮

環境 未来へつなぐグリーンポート

- 脱炭素社会や循環型社会の実現に港湾エリアが貢献
- 水と緑のネットワークの拡充、海域環境の保全・改善

観光・水辺のまちづくり にぎわいをつなぐゲートウェイ

- 水辺の多様な機能の集積を生かし、人々が訪れるゲートウェイとして、にぎわいと活力に満ちている

東京港第9次改訂港湾計画に向けた 長期構想 【中間まとめ概要版】

施策の方向性

物流 世界とつながるリーディングポート

コンテナ・ユニットロードターミナルの機能強化

- ▶ コンテナ貨物量の増加への対応
新規整備 (Y3、Z1 機能拡充)
再編整備 (岸壁増深、GC大型化、ヤード拡張)
- ▶ モーダルシフト等によるユニットロード貨物量の増加への対応
新規整備 (中防内 機能拡充)
再編整備 (岸壁増深、岸壁前出し、ヤード拡張)

輸出入の拡大に向けた貨物の取り込み

- ▶ **フィーダー船**が優先的に利用できるふ頭を整備
- ▶ **外貿ふ頭**と**内貿ふ頭**、**鉄道等**とのシームレスな接続による輸送、積替えを円滑化
- ▶ 内航航路ネットワークを活用した**国内貨物の取り込み**により**農水産品・食品等の輸出を促進**



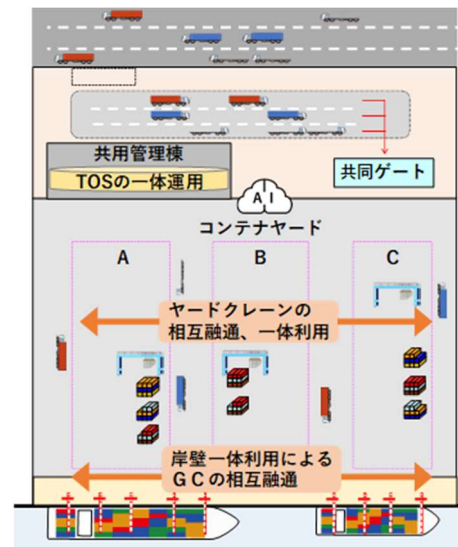
東京港の機能強化イメージ

2040年代の貨物量見通し

- 外貿・内貿コンテナ貨物量： 570万～ 670万TEU (2019年実績： 501万TEU)
- ユニットロード貨物量： 1,350万～1,500万トン (2019年実績： 1,114万トン)

最先端技術を活用した効率的なコンテナターミナルの実現

- ▶ サイバーポートの導入等により**港湾手続きの電子化**を図り、ゲート処理時間やヤード内荷役作業など、貨物のリードタイムを短縮
- ▶ **荷役機械の高度化**による貨物の効率的な処理
- ▶ TOSの統一化等による**ターミナルの一体利用**により、ヤードスペース等の利用を最適化
- ▶ 海上交通の安全性向上や船員の労働環境の改善等に向け、**自動運航船の就航**を可能にする施設を整備



TOS：ターミナルオペレーションシステム
GC：ガントリークレーン



荷役機械の遠隔操作イメージ

出典：「AIターミナル」の実現に向けた目標と工程 (H31.3) (国土交通省)



自動運航船イメージ

出典：DFFAS CONSORTIUM

施策の方向性

防災・維持管理 信頼をつなぐレジリエントポート

災害時にも機能を維持する強靱な港の構築

- ▶ 首都直下地震等においても物流機能を確保するため、新規ふ頭の整備や既存ふ頭の再編整備に合わせ**耐震強化岸壁、免震クレーンを整備**

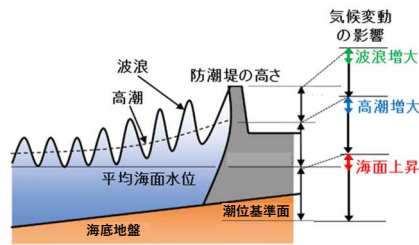
気候変動に適応し都民の生命と財産を確実に守る

- ▶ 今後の気候変動による**平均海面水位の上昇等の影響を踏まえ**

海岸保全施設を整備



耐震強化岸壁・免震クレーン



気候変動による平均海面水位の上昇

出典：「気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討委員会資料」（国土交通省）より作成

観光・水辺のまちづくり にぎわいをつなぐゲートウェイ

クルーズ客船の寄港ニーズへの対応

- ▶ 寄港ニーズ等を踏まえ東京国際クルーズターミナルの機能を拡充

舟運（水上交通）等による回遊性の向上

- ▶ 官民が連携した船着場の整備、にぎわいの創出を推進



東京国際クルーズターミナル

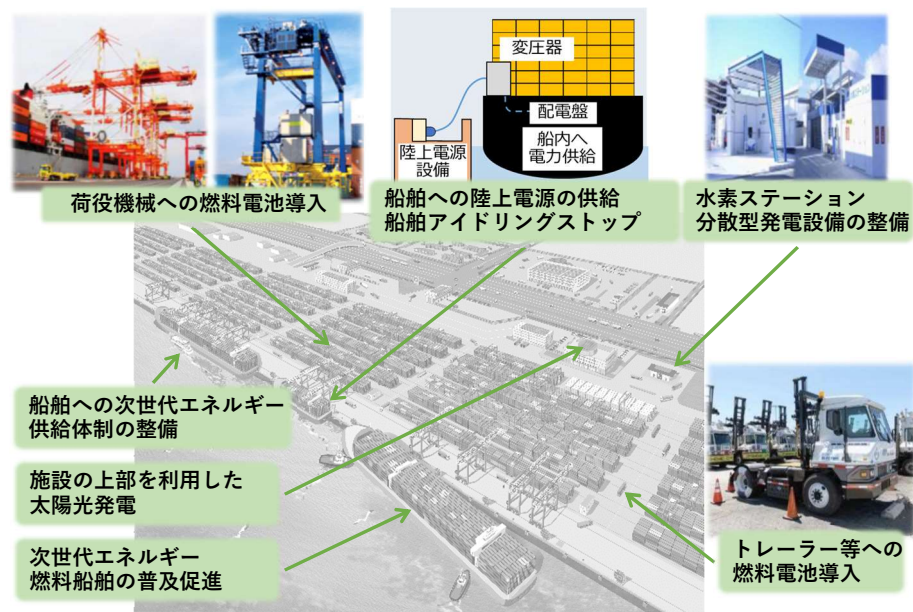


水上バス

環境 未来へつなぐグリーンポート

カーボンニュートラルの実現

- ▶ カーボンニュートラルを実現するため、**荷役機械や船舶などについて脱炭素化の取組を推進**



カーボンニュートラルの取組イメージ

出典（写真）：「カーボンニュートラルポート（CNP）の形成について」（R3.6）（国土交通省）

豊かな海域環境の創出

- ▶ 多様な生物の生息の場、**ブルーカーボンの活用**の場としての干潟や藻場等を保全・再生



藻場（ワカメ）

出典：水産庁HP